

未来へつなぐ下水道

洛南高校附属小学校

四年

兒玉

望来

私は毎朝、洛西浄化センターの前を通って学校に通っています。父から「ここはトイレの水とか手を洗ったときの水がきて、きれいにしてくれているんだよ」と一年生のおききに教えてもらいました。その日から、広くて立派なこの建物の中はいったいどうなっているんだろうと、とても気になっていました。

浄化センターの中へ、私は待ちに待った日か来てわくわくして行きました。ところが、最初のちんさ池で私は一気にたじろぎました。

想像以上の強烈なおいです。それもそのはずです。一日に一億五千万リットル、二十五メートルプールにすると五百杯分の汚い水が一日に浄化センターに集まっていますと聞きました。またちんさ池の水は茶色くにどりゴミも浮いていて、あまりにもひどい状態で驚きました。でも働く人は何事もない平気な様子です。自分達が出した汚い水なのに、いちい

ちくさいと過剰に反応してしまい、なんだか
はがかしい気持ちになりました。

次はちんでん池です。においはましになり
ました。かはや蚊がいきました。そんな中でも
一年中休みなく働く人に、私は感謝しなければ
ならないと思いました。

次に生物反応槽です。微生物が汚れを食べ
てくれると学校で教わっていた私は特に興味
を持っていました。私の想像では微生物は赤
色でした。が、顕微鏡で見せてもらうと体は透
明で透けていました。糸状の微生物が一瞬で
動き去るところも偶然見れて小さな命を感じ
ることができ貴重な体験でした。この小さな
微生物は二十種類もいるそうです。ボルテ
セラ、コレッパス、エピステイリスどれも
格好いい名前です。汚れと戦うヒーローのよ
うです。またこれらの微生物が活躍する生物
反応槽の水は緑色に変化していました。自然
にやさしく安全な色に感じました。私が想像
していた赤は、微生物に対して悪い先入観を

抱いていたんだと微生物にも申し訳ない気持ちになりました。ただし、シペテラといふ微生物だけは増えるとはよくないと聞き、管理する働く人の大変さに改めて感心しました。

最後に消毒設備から流れる水を見せてもらうと、においもなくきれいで透明な水に変身していました。固体の物だと汚れがサツとふきとるだけで済むけれど、水は液体だから汚れをとるのは最も困難な作業だと思えます。浄化センターってすごすぎる、私のたるんだ心もきれいになった。気がして、気持ちが悪きしまつていくのを感じました。

見学が終わり、「いえ、まだまだ終わっていません。浄化センターのトイレがピカピカでとてもきれいでした。水を大切にしたいと願う働く人の気持ちの表れだと気付きました。

屋上で食べたお弁当、ご飯もおかずもお茶も作るのに全て水が必要でです。見上げると空に浮かぶ雲、雲の正体も水です。水は私達の生活も循環しています。だから聖徳太子のお

しっこも飲んでいゝことになります。これが
らこの水を未来へつなげていかなければなり
ません。浄化センターは未来への水をきれい
に保ち、安全で美しい自然環境を作り出し、
病気をふせぐ衛生管理も行う、未来へ安心を
届けこくれる超極太のパイプなのです。

私も未来へつなぐパイプの一枝になれるよ
う、できることを始める決意をいたしました。

一つ、雑巾しぼりのとき細めに水を止める、
トイレの大小の水の使い分けることで、水の
おだ使いをなくします。

二つ、食べ残しをなくすることで、汚れた水
を流さないようにします。

三つ、浄化センターに行ったことがない大
人の人たちに伝えることで輪を広げます。

プラス、家のトイレ掃除は自分の仕事にし
てピカピカにします。

「未来へつなぐ下水道、毎日感謝を忘れず
に、きれいな心で水をいただきます。合掌。」

これから毎朝浄化センターの前で唱えます。